

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

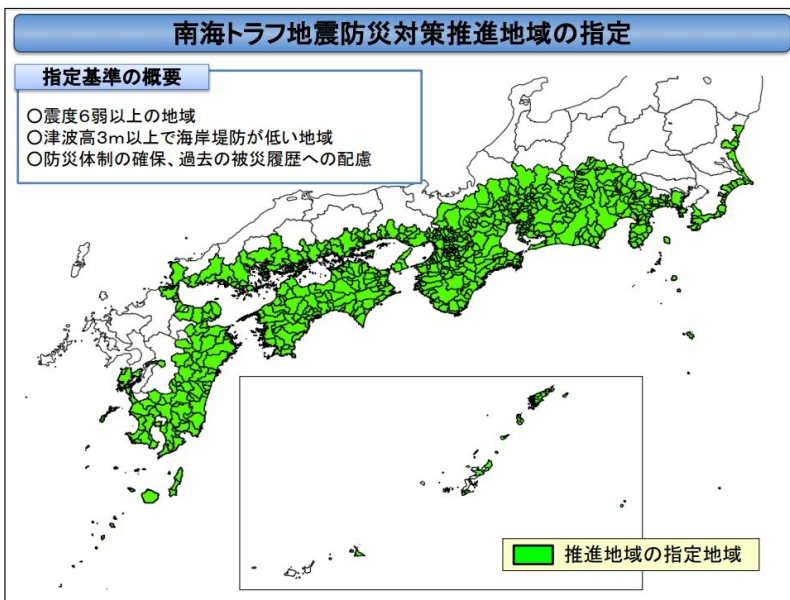
令和6年5月

備えあれば患いなし

今年の干支は甲辰（きのえ・たつ）です。甲（きのえ）とは葉の形が尖り、上向きに伸びる「陽」の気を持つ樹木を表し、草木が硬い種から芽吹くということで、物事の最初であり始まることを意味していて、旧来のしきたりや慣習を破り、革新の道を進むべしという暗示です。辰（たつ）には空想上の龍が割り当てられていますが、古代中国では実在すると考えられていて、日本ではヤマタノオロチや水を司る龍神などが知られています、権力・野心・繁栄を表し大空を昇り最も勢い盛んな干支とされ、いろいろな物が勢力を振るう年になると考えられています。

それでは、前回の甲辰年（60年前）はどんな年だったのでしょうか。1964年は、首都高速道路が開通し東海道新幹線が開業してアジア初の東京オリンピックが開催されるなど戦後日本の復興を象徴する歴史的な転換期でした。その前の1904年は日本がロシアに宣戦布告し、日露戦争が勃発した年でした。いずれにしても甲辰年は日本にとって大きな出来事が起こる年なのかもしれません。

元日の能登半島地震では、最大震度7の揺れが石川県能登地方を襲い、亡くなられた方は3月5日時点で241人・負傷者1,299名・住宅被害81,717棟が報告されています。さらに4月17日には、愛媛県の愛南町、高知県の宿毛市で震度6弱を観測し3月と4月だけで震度5弱の地震が4回も各地で観測されています。



政府の地震調査委員会は、南海トラフで今後40年以内にM8～9級の巨大地震が発生する確率を90%程度と高確率に引き上げており、もし最大クラスの地震が起こると最悪の場合死者が32万3000人にのぼると被害想定も報告されています。地震被害を減らす取り組みとして住宅の耐震化が挙げられますが、高額なため誰でも行うことは不可能でしょう。備蓄と避難は日頃からの備えとコミュニケーションづくりで誰にでも出来ます。自分や家族の命を守る為にいざという時に備えましょう。

理事 ひがし俊克

ウトロ平和祈念館(宇治市)を訪ねて

桜井市内の3つのふれあいセンター主催による『人権バスツアー』が3月10日に行われ参加させて頂いた。有料のツアーであったが大型バス2台に60余名の参加があり午前中は2022年4月に開館した京都府宇治市にある「ウトロ平和祈念館」（以後「祈念館」）午後、源氏物語の舞台でもある「宇治平等院」の見学であった。「祈念館」の設置の目的は「日本と朝鮮半島の歴史、日本で生きてきた在日コリアンの歴史、そしてさまざまな困難を乗り越え、ともに歩んできた日韓市民それらの記憶と思いを伝えて未来へとつないでいくために建設された」とHPで紹介されている。

祈念館の壁面には「ウトロに生きる ウトロで出会う」の懸垂幕が掲げられていた。

何故、ウトロと言うのか？それは「京の七口（ななくち）」があるように、当地区は宇土口（うとぐち）と呼ばれていたのがウトロになったと説明を受けた。近代の歴史として、第2次世界大戦中に日本政府が「京都飛行場」建設のために、朝鮮半島や内地から多くの労働者が集められ敗戦で中止となり「終戦後多くの労働者は帰国を希望したが日本の植民地支配により故郷での生活基盤が破壊され、朝鮮半島が社会的にも政治的にも混乱していることや、日本政府による財産の持ち出し制限、その他生計の問題などで日本にとどまる人々も多くいた」と言われている。在日朝鮮・韓国の人々を取り巻く厳しい状況については、ある程度知られていると思うが、ウトロ地区では居住集落をめぐる立ち退き問題（裁判で敗訴）が韓国でも取り上げられ「ウトロの問題は日本における重大な人権問題」であるとの日本人の訴えもある。また土地購入の市民募金運動がはじまり日本と韓国の連帯した活動が行なわれており、強制撤去を乗り越え、今は住環境整備事業が行なわれるようになった。

民族差別によるヘイトクライム（憎悪犯罪）



「祈念館」の開館に先立つ2021年8月30日ウトロ地区で倉庫、民家など7棟が全半焼する大規模な火災が発生した。人的な被害はなかったものの建物やウトロ地区の歴史や住民たちの思いを表現した立て看板など貴重な歴史を伝える史料40点以上が焼失する放火事件がおこった。

この放火事件が、桜井の青年によっておこなわれたことは、私にとって衝撃的なことであった。この青年は、ウトロへの放火だけではなく、愛知や大和高田でも放火事件をおこしていた。インターネットによる誤った情報で在日コリアンへの差別と偏見を助長したことを、裁判で述べている。京都地裁での判決の日に、私は当事者の方々の会見を聞くことが出来た。

「差別・偏見で放火して一生を棒に振る前に、私たちに話を聞いてくれからよかったのに。」
「青年の意識の変革を願っている」という「罪を憎んで、人を憎まず」の深い想いに心を打たれた。

そして、今回の人権バスツアーで、焼け跡の現場に立って感じたことは、インターネット等で青年の認識を大きく歪ませる差別情報が広く流されており、それに対抗していく差別撤廃・人権確立の取組を一層強めることが必要であると共に、桜井市の人権教育・人権啓発に取り組んでいるリーダーをはじめ市民の方々に、「祈念館」を訪れて学習を深め、このようなヘイトクライムやヘイトスピーチを無くしていくことを再確認することが重要と実感した。まずは、「祈念館」のホームページを訪問して欲しい。
(編集子 楠木 克弘)

(追記) 「うるわし通信」作成時に、今年3月31日発行の桜井市人権教育推進協議会発行の「共に生きる桜井」のパンフレットが、広報「わかざくら」に同封で届けられた。

昨年6月23日に市人推協の管外研修としてウトロ平和祈念館を、男女共同参画推進ネットワーク会議と合同で訪問した記事が掲載されている。全戸配布なので、併せて読んで頂くとより詳しく理解いただけると思う。

火災発生当時の様子



うるわしの桜井をつくる会定時総会

第14回定時総会を下記の通り開催させていただきます
皆様のご出席をお待ちしています。

日時 令和6年6月23日(日) 13時(受付12時30分)

場所 桜井市まほろばセンター 交流室1・2

議案 令和5年度事業報告 同決算報告 同監査報告
令和6年度事業計画案 同予算案

公開講演会 「景観力」 講師 藤本英子 氏
(日本景観文化研究機構理事長)

桜井駅前広場から講師と本町通りを歩いて視察の後
会場に移動してコメントを頂きます。



桜井図書館友の会

- 5月の読書会は、『恥辱(ちじょく)』南アフリカ共和国出身のノーベル賞作家 J. M. クッツェー(著)です。

舞台はアパルトヘイト撤廃後の南アフリカ。離婚を2度経験している大学教授のデヴィッドは、若いころから奔放な性を楽しんできたが、20歳の女子学生に強烈に引かれ、歳の差も社会的な立場も考えずに彼女を追いまわすようになる。

- 日時：5月28日(火)15:00から

場所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949 会員以外の参加も歓迎します。



編集後記

能登半島・台湾・豊後水道と相次ぐ地震に、能登半島地震での復旧のスピードが何故これほどに時間が掛かっているのかと感ぜざるを得ない。編集子は、4月中旬に北前船の歴史を調べるために、福井県敦賀市から石川県小松市の日本海沿岸の集落を訪ねた。明治中期までは海運の物流で栄えた集落も、過疎化が進みメインストリートさえもシャッター街になっており、民家は老朽化している所が多く、地震で一溜まりもなく崩れてしまったことも理解できた。復旧は、建物やライフラインだけでなく、地域経済の再建が不可欠で長期の課題であることを再確認した訪問となった。

(編集子 K)

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL:090-3652-8104